児童の語りに着目した授業分析
―個の思考体制を捉えるために―

宮川　史義
（京都教育大学附属桃山小学校）

Analysis of a Class Focusing on Elementary School Pupils' Narratives: Intending to Capture Individual Thinking Systems

Mitake MIYAKAWA

2024 年 9 月 30 日受理

抄録：本稿では、筆者が実践した小学校 5 年生社会科「自然災害をふせぐ」の学習での児童の発言を取り上げ、発言の意味や意義、個の学びの筋道を明らかにすることを試みた。授業の分節化と個の語り（発言・振り返り）の整理・分析をもとに、授業を通して個がどのように社会的事象を捉え、思考したのか、社会認識を変容させていったのか、その過程を整理し分析した。

キーワード：語り　授業分析　思考体制　個　社会認識　社会科

Ⅰ．はじめに

1.　児童の姿から

> 自分のこととして考えてなかったんですよ。いつ、自分に危険があるかわからないのに、自分のこととして考えてなかったから用意ができていないんですよ。B さんの話に出てきた、今、この被害者数じゃないですか。この中でたくさんいるんですけど、高齢者の方が多い日本って国の中でたくさん今年も災害が起きているのに、まだ災害の意識が薄れているってことは考えられないんですよね。まだ僕たちみたいな子どもだったら、まだこの学年だったら東日本大震災ギリギリ受けてないんでわかるんですけど、大人の方が多い今で、まだこんなに被害が多いのは、これは日本という国に大きな欠陥があると思うんですよ。

これは、小学 5 年社会科「自然災害をふせぐ」で、“南海トラフ巨大地震で気になることは？”という学習問題をもとに、それぞれの考えを聴き合っていた際の A 児の発言である。実際に授業を行いながら、このような切実さをもった発言する A 児の姿に驚きを覚えた。そして、上の発言は、次のように続く。

> だったらとにかく今、危ない経験をしたのに同じような過ちを犯すような人がたくさんいるとは思わないでしょう？だからあんまりなんていうのか、一番高齢者の方とか自分は災害が起きたときに避難できないとか、実際に受けたからわかるっていうなんていうのか、一番準備しているから、準備していると思います。

過去に大きな災害の被害を受けた人々の経験に着目し、行動へ目を向け、学級の他の児童へ同意を取ろうとしている。A 児のこの発言の切実さはどこからくるのだろうか。他者の考えとの関連性はあるのか。この発言はどのような思考過程を経て発せられたのか。A 児の学びの過程を分析し、個の思考体制[1]を明らかにすることが本研究の目的である。

2. 問題の所在

周知の通り、2017（平成 29）年告示小学校学習指導要領[ii]では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現を掲げている。単に知識・技能の習得にとどまらず、対話を通しての児童の思考や判断を重要視する姿勢が示されている。確かに、急激な社会の変化、予測困難な社会の状況である現在、問題解決に向けてどのような方策を選択するのか、適切な判断をすることをこれまで以上に必要なこととなっている。特に小学校社会科学習では、問題解決的な学習過程において、相互に関連性を持ちながら「思考力、判断力、表現力等」を育成されるものと示されている。また、問題解決的な学習による深い学びを通して、各学年の目標を実現するよう、「社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して」と示されている。また、主体的・対話的で深い学びに繋げるよう指導計画を工夫し、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、主として用語・語句などを含めた具体的な事実に関する知識を習得することにとどまらず、それらを踏まえて社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことのできる応用性や汎用性のある概念などに関する知識を獲得するよう、問題解決的な学習を展開することが大切である。小学校社会科学習において、如何に問題解決を進めていくのかが重要になっている。問題解決の過程の中で、A 児がどのように考え、学びを紡いでいったのか。個の思考に着目しながら分析していくことにより、先の発言の意義や意味について考察していく。

Ⅱ. 分析

1. 本稿の分析手法

児童の語りに焦点を当て分析する本稿は、授業逐語記録や振り返り、学習メモを分析資料として取り扱う。児童の思考を分析する研究としては、R-R 方式（「相対主義的関係追究方式」の略称）[iii]がある。R-R 方式は、児童の「思考体制」を解明するという目的を持っている。「考えるということ、思考するということは、人間が主体的に事柄と事柄を関係づけていくこと、すなわち判断と判断をつないでいくことである。そして考え方とは、事柄と事柄の関係づけ方、判断と判断のつなぎ方である。」と考察し、児童の思考を分析する意義を述べている。R-R 方式の研究は、認識発達の契機の解明が目的であり、分析資料を質問紙と記述式問題の解答としている。また、これらの研究は、授業に対する間接的な分析と位置付けることができる。

以上の分析手法における問題意識に基づいて、授業に対する直接的な分析を志向し、かつ児童の発言の特性に着目する本稿は、児童の発言と授業後の振り返りや学習メモを分析の資料とする。

2. 分析の手続き

つぎの 3 段階の手続きを行う。

（1）分節分け（2）逐語記録による発言の関連図（3）A 児の授業後の振り返りの整理

（1）分節分け

授業をいくつかの分節にわけて、その相互の関連から授業の展開を構造的に把握するために行う。逐語記録から一目で授業の構造を捉えることは難しいことではあるが、分節にわけることによってこれを補うことができる。また石原[iv]は、①授業の展開過程を把握することが可能、②授業の展開過程上節目となっている児童の発言や教師の発問、あるいは授業場面を把握することができること、③授業を動かしているものは何かを探ること、④授業を分析していく方向性を導き出していくことが可能、⑤分析対象として取り上げる発言などが、どの分節に含まれるのかを示すことが可能になると示唆している。分節分けを行うことにより、以上の 5 点を分析者は把握することができる。分節分けを行うことにより、分析者は複雑に入り組んでいる授業に対する理解を深めたり、授業の話し合いの場を支えたり動かしている児童の発言や教師の発問を探ることができる。

（2）逐語記録による発言の関連

A 児の思考体制を捉えるために、詳細な逐語記録から A 児の発言を抽出し、他の発言との関連を見ていく。

（3）A 児の授業後の振り返りの整理
授業後の振り返りを整理することにより、本時までの A 児の学びを明らかにする。

3. 分析対象

（1）小学校 5 年生社会科「自然災害をふせぐ」の概略

本稿でいう小学校 5 年社会科「自然災害をふせぐ」とは、筆者が 2024 年 2 月 1 日から 3 月 4 日までの計 13 時間、小学 5 年生の社会科学習において、「南海トラフ地震について気になることは？」という学習問題を巡って展開した実践[v]をさす。但し本稿の分析対象とするのは、A 児が先の発言をした 9 時間目までの実践である。9 時間目に先の発言をしていることから、それまでの A 児の授業後の振り返りや学習メモを分析する。

次の表は、「自然災害をふせぐ」実践の概略として学習問題、資料、単元展開等をまとめたものである。

時間	単元展開	学習問題と資料
1	第 1 次：問題の把握	“令和 6 年能登半島地震から 1 ヶ月たって、考えていることとは？” No.1：「令和 6 年能登半島地震から 1 ヶ月」（ニュース映像） No.2：「令和 6 年能登半島地震から 1 ヶ月」（新聞記事）
2		“それぞれのふり返りをもとに、考えたことを聴き合う”
3	第 2 次：問題の追究	“気になったことをもとに、個人で追究を深める”
4		“Y アナウンサーの報道を聞いて考えたことは？” No.3：「当日の緊急地震速報を含む報道」（ニュース映像）
5		“仮設住宅が完成した報道を聞いて考えたことは？” No.4：「仮設住宅完成の報道」（ニュース映像） No.5：「仮設住宅に住み始める人の話」（インタビュー映像）
6		“配給車の仕事に関する報道を聞いて考えたことは？” No.6：「企業の支援物資とその費用について」（各企業 H.P.）
7		“防災・減災・人災について考えたことは？”
8		“それぞれの個の追究を聴き合い、考えたことは？”
9 本時	第 3 次：問題の展開	“南海トラフ地震で気になることは？”
10		“南海トラフ地震で気になることは？（つづき）”
11		“令和 6 年能登半島地震から学んだことは？学べたこと、生かしたいこと”
12		“予測と予言の違いとは？”
13		“A 児の言う日本の欠陥とは？”

図 1：「自然災害をふせぐ」実践概要

（2）小学校 5 年生社会科「自然災害をふせぐ」の特色

本実践の特色は次の 4 点であると、筆者は考えている。

まず、2024 年 1 月 1 日に起こった令和 6 年能登半島地震を教材として位置付けたことである。社会科教科書では、過去に起こった自然災害に焦点を当て、記述されている。本実践を行なった 2024 年は、1 月に令和 6 年能登半島地震が起こった。多くの児童は、自宅や帰省先、旅行先等でこの地震の揺れを体験している。児童の体験や経験を聴き合いの中から見出そうとしているからである。

第 2 に、児童の切実な問題を軸にして話し合い形式の授業を行い、長時間に渡って連続的な追究をさせるという問題解決学習を行っている点である。1 時間毎に、学習問題―予想―調べ―まとめ―振り返りという授業の連続性が切断しやすい小学校社会科授業において、連続的な追究を保障している点に特徴がある。

第 3 の点は、児童が独自に収集した資料を基に授業を実践している点である。第 2 と第 3 の特色を通して、児

童がさまざまな視点から学習問題を追究することを促しているのである。

第 4 に、毎時間ごとの振り返りを書かせて、児童自身の判断及びその判断の根拠を明確にしている点である。つまり、自己の認識を振り返りつつ、判断することを保障しているのである。

（3）小学校 5 年生社会科「自然災害をふせぐ」を分析対象とする理由

本実践を分析する理由は、第 1 に同一のテーマ（自然災害をふせぐ）を様々な視点から追究かつ判断させているために、多面的な視点をもつ判断の変容を分析しやすいことである。第 2 に、授業後の感想は書き言葉の資料となる。授業内での自己と他者の発言を基に、思考されたことが表出される。第 3 に、児童の体験や生活経験を含んだ発言できることが分析対象に設定することが分析上望ましく、小学 5 年生はその条件を満たしていると考えるからである。以上の理由で、本実践を分析対象とした。

4. 分析結果及び考察

（1）分節分け

第 9 時分節分けと見出し語については、以下の通りである。

分節	発言番号	発言された主な概念
1	1~12	「南海トラフ地震」「気になること」
2	13~21	「半割れ」「マグニチュード」「全割れ」
3	22~24	「被害」「水道」「被害にあう人」
4	25~28	「宝永地震」「歴史」「富士山」
5	29~31	「予測」「研究」
6	32~35	「東日本大震災」「宝永地震」「予言」
7	36~59	「被害」「予言者」「準備」
8	60~75	「準備」「仮設住宅」「対策」
9	76~79	「地形」「被害」
10	80~118	「準備」「まち」「連携」

図 2：第 9 時分節分けと見出し語

第 1 分節：1~12

主な話し合いの内容：南海トラフ地震について気になることについての意見が出される。半割れとはどのような状態のことや、地形の変化、被害の金額、いつ起こるのかわからないこと等について、気になっていることを出し合う話し合いをする。

A 児の発言①とその内容

昨日の聴き合いでもいったんですけど、どんな被害が出るか？どんな地形になるか？いつ起きるか？は起きた時にしかわからないじゃないですか。いつ起きるかわからないのに被害もわからないのに、そんな予想をしても外れるだけだから、南海トラフが今起きたとしてどのようなことをすれば命が助かるのか？

第 2 分節：13~21

主な話し合いの内容：半割れについて個別の追究で得た事実やマグニチュード（被害の大きさ）について出し合う話し合いをする。

A 児の発言②とその内容

えっと半割れの反対のことを調べたんですけど、半割れの反対に全割れっていうのがあって、昔 1707 年の江戸時代に宝永地震っていうのが起こったんですよ。それは全割れっていっても地震の域が全土をバンって被害を受けるもので震度 7 が行き互いになってすごい範囲で震度 7 の大きい地震が起きたんですよ C さん

第 3 分節：22~24

主な話し合いの内容：上下水道の使用状況や被害について、個別の追究で得た事実や被害にあう人々について気になることを元に話し合いをする。

A 児の発言とその内容

発言なし

第 4 分節：25~28

主な話し合いの内容：記録に残っている地震の情報や歴史、富士山について個別の追究で得た事実について出し合う話し合いをする。

A 児の発言とその内容

発言なし

第 5 分節：29~31

主な話し合いの内容：予言と予測・研究について、地震予測の研究をしている方の情報を得ている。

A 児の発言とその内容

発言なし

第 6 分節：32~35

主な話し合いの内容：東日本大震災、宝永地震とを比較しながら、予言について捉え直す話し合いをしている。

A 児の発言③とその内容

えっと、D 君が言ってた宝永地震、富士山の噴火って関係ないと思って調べて、宝永地震の後、４９日後に噴火が起こったんで火山活動がめっちゃ遅くなってるかもしれないけど、そこまでそんなに関係があるのかなと思ってそんなに関係ないと思ったのと、で京大の先生が予想しているって E さん言ったじゃないですか。何だったら起きるっていうのは確実なんで確実なんですよ。だったら僕何回も言うんですけど、起きた時にどうなるかは、起きた時にしか分からないんですよ。例えば南海トラフが巨大すぎてほとんど家とかが崩れて、震度 8 とかが発表された場合にはそれは手がつけられないじゃないですか。もともと予測してた意味がなくなるじゃないですか。それかもしかしたら震度 6 ぐらいにちょっと収まるかもしれない。やっぱりそん時に起きた時にしかわからないことを今必死に考えても、外れた場合虚しいし、天気予報みたいに絶対に当たるっていう確信がないんやったら、やっぱり、そんなに今予測したところで変わらないんだから、予測する意味ないんじゃないのかなと思ったところと、昨日の聴き合いで一回考えたと思うんですけど予言という話があったじゃないですか。予言は絶対起こらない。絶対に当たらないと思うんですよ。例えば僕が紀元前 1 年から始まったじゃないですか。キリストが生まれたから。1 年から 1 億年までに地震は二回起こりますって言ったときに絶対起こるじゃないですか。範囲決めたら絶対起こるんですよ。じゃあもう一個気になったのは予言する人いるじゃないですか。なんで予言できる人は予言ができて僕たちが分からないんですか？そこがわからないんですよ。その人たちは神の後継者なんですか？確定な自信も持ってないのに適当に言って当たって、こいつ予言者やってなったらおかしいじゃないですか。僕だって南海トラフが 100 年以内に当たりますっていって当たりましたってなっても予言者じゃないじゃないですか。だから予言っていうのは当たらないと思いま

第 7 分節：36~59

主な話し合いの内容：南海トラフ地震の被害の様子や、予言と準備はどのように異なるのか話し合いを進めている。

A 児の発言とその内容

発言なし

第 8 分節：60~75

主な話し合いの内容：教師の「準備は必要か。」という発問をもとに、地震に備える準備の必要性、仮設住宅で暮らす人々の生活、各企業の対策について個別の追究で得た事実や被害にあう人々について気になることを元に話し合いをする。

A 児の発言とその内容

発言なし

第 9 分節：76~79

主な話し合いの内容：実際に起こっている地形の変化について取り上げ、被害の状況に関する話し合いをする。

A 児の発言とその内容

発言なし

第 10 分節：80~118

主な話し合いの内容：様々な場所で行われている地震の備えについてあげながら、それぞれの場所やものと、準備について話し合いをする。

A 児の発言④とその内容

なんか。誰が一番準備してるかって考えたら、今この日本国って超高齢化社会で 4 人に 3 人確率で若者で 4 人に 1 人の確率で高齢者の方たちがいるんですよ。でその人たちが一番用意してると思うんですよ。資料挙げるんですけど、まず東日本大震災は、2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分で阪神淡路大震災が 1994 年 1 月 17 日 5 時 46 分に起こって、一緒なんですけど今回の議題としては高齢者の方はどっちも経験していると思うんですね。東日本大震災って一番死人が多かったっていうと、津波なんですよ。津波で東日本大震災の安否なんですけど、避難指示を見た人は 60%で避難した人は 1 パーセントほどだったんですよ。日本って、災害の意識がとにかく薄いんですよ。でその理由として挙げられてるのは大事なものを置いてきた。これはわかるんですけど、あと障害物で逃げたれなかったのもわかるんですけど、一番決定的な理由があるんですよ。

発言⑤とその内容

自分のこととして考えてなかったんですよ。いつ、自分に危険があるかわからないのに、自分のこととして考えてなかったから用意ができていないんですよ。C さんの話に出てきた、今、この被害者数じゃないですか。この中でたくさんいるんですけど、高齢者の方が多い日本って国の中でたくさん今年も災害が起きているのに、まだ災害の意識が薄れているってことは考えられないんですよね。まだ僕たちみたいなこどもだったら、まだこの学年だったら東日本大震災ギリギリ受けてないんでわかるんですけど、大人の方が多い今で、まだこんなに被害が多いのは、これ日本という国に大きな欠陥があると思うんですよ。だったらとにかく今、危ない経験をしたのに同じような過ちを犯すような人がたくさんいるとは思わないでしょう？だからあんまりなんていうんか、一番高齢者の方とか自分は災害が起きたときに避難できないとか、実際に受けたからわかるっていうか、なんていうんか、一番準備しているから、準備していると思います。

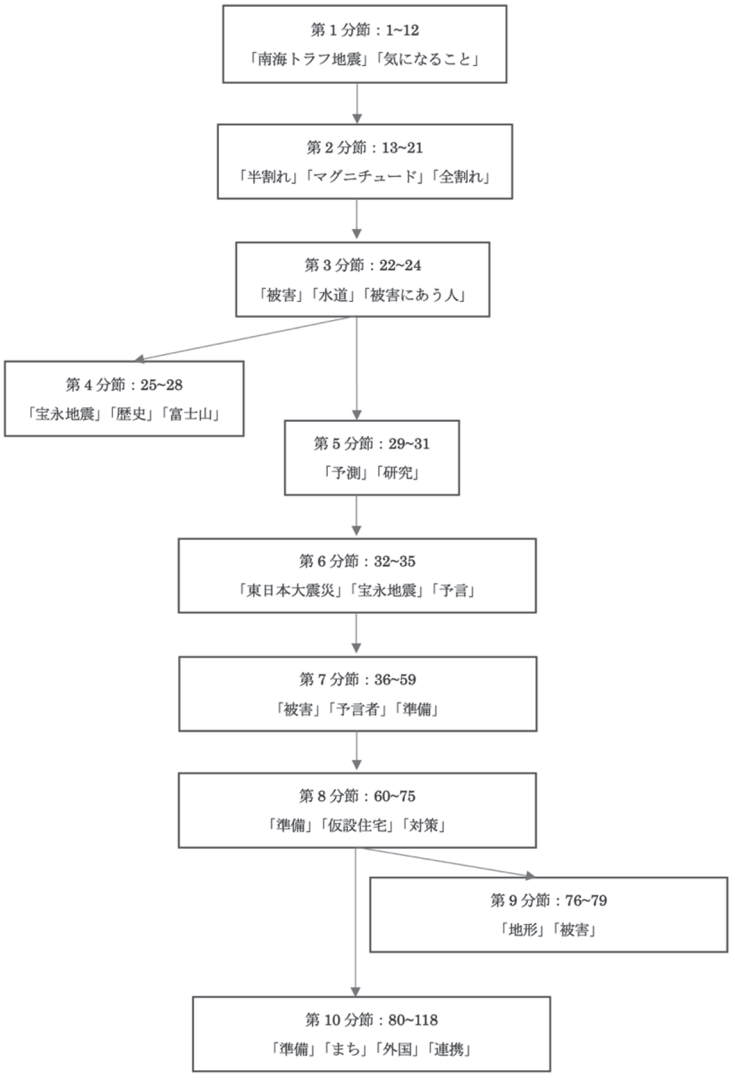

図 3：第 9 時分節の相互関係図

（2）逐語記録による発言の過程

逐語記録による A 児の発言の過程については、以下の通りである。

分節	発言内容	キーワード・考察
1	発言① 昨日の聴き合いでもいったんですけど、どんな被害が出るか？どんな地形になるか？いつ起きるか？は起きた時にしかわからないじゃないですか。いつ起きるかわからないのに被害もわからないのに、そんな予想をしても外れるだけだから、南海トラフが今起きたとしてどのようなことをすれば命が助かるのか？	命が助かるには？ 完全、完璧さを社会にも求めている発言である。
2	発言② えっと半割れの反対のことを調べたんですけど、半割れの反対に全割れっていうのがあって、昔 1707 年の江戸時代に宝永地震っていうのが起こったんですよ。それは全割れっていっても地震の域が全土をバンって被害を受けるもので震度 7 がいき互いになってすごい範囲で震度 7 の大きい地震が起きたんですよ C さん	個の追究の報告 半割れと全割れ 当時の震度と令和 6 年能登半島地震との大きさを比べようとしてい

		る発言である。
3	発言③ えっと、D 君が言ってた宝永地震、富士山の噴火って関係ないと思って調べて、宝永地震の後、４９日後に噴火が起こったんで火山活動がめっちゃ遅くなってるかもしれないけど、そこまでそんなに関係があるのかなと思ってそんなに関係ないと思ったのと、で京大の先生が予想しているって E さん言ったじゃないですか。何だったら起きるっていうのは確実なんで確実なんですよ。だったら僕何回も言うんですけど、起きた時にどうなるかは、起きた時にしか分からないんですよ。例えば南海トラフが巨大すぎてほとんど家とかが崩れて、震度 8 とかが発表された場合にはそれは手がつけられないじゃないですか。もともと予測してた意味がなくなるじゃないですか。それかもしかしたら震度 6 ぐらいにちょっと収まるかもしれない。やっぱりそん時に起きた時にしかわからないことを今必死に考えても、外れた場合虚しいし、天気予報みたいに絶対に当たるっていう確信がないんやったら、やっぱり、そんなに今予測したところで変わらないんだから、予測する意味ないんじゃないのかなと思ったところと、昨日の聴き合いで一回考えたと思うんですけど予言という話があったじゃないですか。予言は絶対起こらない。絶対に当たらないと思うんですよ。例えば僕が紀元前 1 年から始まったじゃないですか。キリストが生まれたから。1 年から 1 億年までに地震は二回起こりますって言ったときに絶対起こるじゃないですか。範囲決めたら絶対起こるんですよ。じゃあもう一個気になったのは予言する人いるじゃないですか。なんで予言できる人は予言ができて僕たちが分からないんですか？そこがわからないんですよ。その人たちは神の後継者なんですか？確定な自信も持ってないのに適当に言って当たって、こいつ予言者やってなったらおかしいじゃないですか。僕だって南海トラフが 100 年以内に当たりますっていって当たりましたってなっても予言者じゃないじゃないですか。だから予言っていうのは当たらないと思います。	地震と噴火の関連 研究者の予測 予言 完全、完璧さを社会にも自分自身にも求めているため、焦りや、もどかしさを感じている発言である。 性急に完璧さを社会に求めるのではなく、以前よりも前進していることの重要性や意味や意義を見出すことが必要ではないか。
10	発言④ なんか。誰が一番準備してるかって考えたら、今この日本国って超高齢化社会で 4 人に 3 人確率で若者で 4 人に 1 人の確率で高齢者の方たちがいるんですよ。でその人たちが一番用意してると思うんですよ。資料挙げるんですけど、まず東日本大震災は、2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分で阪神淡路大震災が 1994 年 1 月 17 日 5 時 46 分に起こって、一緒なんですけど今回の議題としては高齢者の方はどっちも経験していると思うんですね。東日本大震災って一番死人が多かったっていうと、津波なんですよ。津波で東日本大震災の安否なんですけど、避難指示を見た人は 60％で避難した人は 1 パーセントほどだったんですよ。日本って、災害の意識がとにかく薄いんですよ。でその理由として挙げられてるのは大事なものを置いてきた。これはわかるんですけど、あと障害物で逃げたれなかったのもわかるんですけど、一番決定的な理由があるんですよ。 発言⑤ 自分のこととして考えてなかったんですよ。いつ、自分に危険があるかわからないのに、自分のこととして考えてなかったから用意ができていないんですよ。C さんの話に出てきた、今、この被害者数じゃないですか。この中でたくさんいるんですけど、高齢者の方が多い日本って国の中でたくさん今年も災害が起きているのに、まだ災害の意識が薄れているってことは考えられないんですよね。まだ僕たちみたいなこどもだったら、まだこの学年だったら東日本大震災ギリギリ受けてないんでわかるんですけど、大人の方が多い今で、まだこんなに被害が多いのは、これ日本という国に大きな欠陥があると思うんですよ。だったらとにかく今、危ない経験をしたのに同じような過ちを犯すような人がたくさんいるとは思わないでしょう？だからあんまりなんていうん一番高齢者の方とか自分は災害が起きたときに	準備の必要性 個の追究の報告 経験 自分事 準備をすることの重要性、災害への意識を高めていくことの必要性

	避難できないとか、実際に受けたからわかるっていうなんていうん、一番準備しているから、準備していると思います。	を発言している。

図 4：逐語記録による A 児の発言とキーワード・考察

（3）A 児の学習後の振り返り

時間	学習問題	授業後の振り返り
1	“令和6年能登半島地震から1ヶ月たって、考えていることとは？”	僕は大きい地震があったとテレビを付けたからわかりました。地震がおきたときは車に乗っていたからあまり分からなかったけれど、実際にテレビをつけると石川県の県民がとにかくパニックになっていて、聞き慣れない地震の速報の音が TV から出てきたのが印象的でした。そして、お正月の特番番組がなくなったのでそこでも、とても大きい地震が起きたんだな、と思いました。最初は、あまり死者の数や家が潰れたりの画像が出ていなかったから東日本大震災なみに大きい地震ではなかったと思ったのに、それから 1 日たったときに火災や、住宅地の崩壊の画像が出てきて、こんなに大きい地震だったんだ、と思いまた。それと同時に、配給車や、トイレ車がきて、技術のはってんや、優しさがわかりました。トイレ車では、物体 X が特殊密閉されて持ち帰られたり、配給車は無料で食べ物を配ったりしているからです。でも、人間の本能もわかりました。配給車で取られているのは、すぐに食べられるお菓子などです。つまり、にんげんはいざとなったときは自己中心的に動いてしまうということもわかりました。
2	“それぞれのふり返りをもとに、考えたことを聴き合う”	僕は、こんかい優しさという言葉に意識して聴き合いをしました。本当の優しさは、自分の身を削って他の人のことを助けたりすることだと思うからです。その中で、H さんの中の優しさと僕の中の優しさが違ったので、また自分で考えたいと思います。
3	“気になったことをもとに、個人で追究を深める”	①　配給車（給水車が配る飲み物や食べ物）のお金は、誰が出すのか。 ②　自衛隊は南海トラフに対して用意をしているのか。 ③　仮設住宅は使い終わったらどうするのか。
4	“Yアナウンサーの報道を聞いて考えたことは？”	僕は Y アナウンサーはあまり焦ってもいなくて、いま起きていることをただ単に言っているだけだと思います。しっかりと地震の状況を言わないと視聴者から叩かれるし、かといって言ってしっかりとした内容じゃないと叩かれるし、自分の給料が下がるからです。（間違って言っているところがあるのを自覚しているから TV なんかみないでと言っているアナウンサーもいるんじゃないかなと思いました）
5	“仮設住宅が完成した報道を聞いて考えたことは？”	僕は、今回の聞き合いをしてなお、なぜみんなが仮設住宅に住まないのかが気になります。絶対居心地いいはずなのに住んでいないからです。ストレスの問題もあるけれど、むしろ避難施設にいたほうがストレスがたまるような気がするからです。（あと、仮設住宅を作ってそんは一個もないと思う。）
6	“配給車の仕事に関する報道を聞いて考えたことは？”	防災は起きた災害の被害を防ぐことで、減災は災害自体を減らすことだと思います。授業内で人災と言いましたが、人災とは、人が起こす災害で、自然現象ではないことを示します。なので、この世には様々な「ふせげる」災害があることを知りました。
7	“防災・減災・人災について考えたことは？”	今日は、人災、防災、減災のことについて話し合いました。 僕的には人災は人によって起こる災害で、防災はその災害全体の被害を抑えるための工夫で、減災は人災（防げる災害）をなくすことだと思います。まだ完全に言葉を理解していないけれど、僕的には防災が一番大事だと思うので、防災を意識したいです。

8	“それぞれの個の追究を聴き合い、考えたことは？”	今日は、みんなの発表を聞いて心に残った発表がいくつかあります。それは、Ｉくんの発表です。Ｉくんは防災のことについて発表をしていて、いざとなったときの用意などをまとめていたのでわかりやすいし、ためになりました。僕も、みんなが読みやすく、わかりやすいスライドを作りたいです。
9 （本時）	“南海トラフ地震で気になることは？”	ぼくは授業内でいった通り、いちど大きな地震を経験した人たちが一番よういをしていると思います。震度７を体感し、大変な思いを受けたのに、もういちど大変な思いを受けるようなおかしいことをする人はこの世にあまりいないと思うからです。そして、予言は絶対にないと思います。その理由は２つあります。１つ目Ｏくんの話であったように確率で決まるならば僕が「みんなはあした息を吸う！」といってあたったらそれは一回やって一回あたったことになる＝１００％当たる予言ということになってしまうからです。２つ目その予言をする人が予言をできて自分たちが予言をできないなんてありえないから。そして、被害のことを考えるのは意味がないと思います。起こるかわからないことを必死に考えてもおこらなかった場合にパニックになってより被害が大きくなる可能性もあるからです。
10	“南海トラフ地震で気になることは？（つづき）”	僕は南海トラフが来るにあたってどのような対策をしたら、自分の命を守れるかを考えられるようになったと思います。しっかりと対策をし、大きな地震が来るという意識をしたら絶対命は守れるからです。そして、準備は食べ物や、飲み物を最優先に暖を取れるものも用意して頑張りたいです。そして、避難場所は複数確認しておいたほうがいいと思います。起きたときに、自分の近くの避難所がいっぱいになる可能性があるからです。起きたときにどんな心構えをし、いかに素早く避難の覚悟を決めるのかが僕は一番大事だと思います。

図 5：A 児の学習後の振り返り

Ⅲ．まとめと課題

本稿は、児童の語りに対する分析を事例研究として行った。本稿は、授業分析の手法や個の学びの筋道の追究においていくつかの知見を示唆するものである。まず授業分析の手法については、本時の逐語記録をもとに、分節化した。また、数時間にわたる授業の振り返りを分析資料とする分析方法を見出した。本稿を通して、その分析手法が、個の思考体制を捉えていく上での視点を得やすいことを示せたと思われる。また、個の学びの筋道の追究では、児童の発言にはその子なりの経験が根拠としてあることを示すことができた。児童の語りを分析していく際には、児童の生活の背景や、そのように発言する理由について、多面的に解釈を重ねていく必要がある。児童が多面的、多角的な視点を通して、社会的事象や教材に正対する授業、児童にとって切実な問題が生まれる、問題が切実になっていく授業には、どのような手立てが必要であろうか。児童の思考を読み解いていくためには、単元を通して個の判断に着目していく必要がある。自己と他者との判断と判断との関連性について授業を通して明らかにしていくことが必要だと考えられる。詳細な考察は今後の課題としたい。

---

[i] 重松鷹泰『授業分析の方法』明治図書、1976 年、(p27~28)。重松は、「個性的な論理」を包括するものを“思考体制”と位置付けて研究を展開した。
[ii] 文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説　社会編』日本文教出版、2018 年。
[iii] 重松鷹泰/上田薫『R-R 方式　子どもの思考体制の研究』黎明書房、1965 年、(p.11)。
[iv] 石原正敬「授業過程の分節化による授業分析」日比裕/的場正美『授業分析の方法と課題』黎明書房、1999 年。
[v] 宮川史義「自然災害をふせぐ」京都教育大学附属桃山小学校　令和 5 年度教育実践研究発表会での提案資料、2024 年。